
君と僕

乃舞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君と僕

【Nコード】

N18190

【作者名】

乃舞

【あらすじ】

君と僕との砂糖菓子のように甘い時間。
甘すぎて溶けてしまいそう。
安心して、不安になって、君を求める…。

> ねえ…、好き？

君の甘い優しい声が僕に響いた。

緩やかに鼓膜を揺さぶる君の声は、

なんとも心地好くて、そこが僕の居場所の気がした。

甘い砂糖菓子みたいでふわふわしたマシュマロみたいな君。
鼻孔をくすぐる君らしい匂い。

隣に座っているだけで、甘さに溺れてしまいそう。

ほんとうに…。

> ねえ…、あたしが嫌い？

君はなかなか答えない僕に質問を変えた。

嫌い？

そんなことないよ。

僕は君が好きすぎて、

宇宙にある星の数だけの人に逢っても、

記憶が無くなっても、

天国に行ってしまうても、

君を見つける自信がある。

だけど、あんまり可愛く僕を覗き込むから、不安そうに握った手に少し力を入れるから、焼き切られた電気線みたいに心臓が熱い。頭がぐちゃぐちゃ。

君の隣にいるだけで、毎日全力疾走したみたい。

>嘘でもいいから。
好きだって言って…よ…。

明るく澄んだ君の瞳に涙の膜が張った。
潤んだ瞳に僕がいた。

細い指が掴む袖口にシワが寄って、無抵抗にくしゃくしゃになる。
まるで、まるで、僕のように。

ただ、一言、『好き』だと言えはいいのに…。
『愛し』てるのに。

君はこんなにも素直なのに。

僕は一人で君という海に溺れている。

暴れれば暴れるだけ苦しくなる。

何も出来ない。
してやれない。

僕は静かに目を瞑り、
君にキスをした。

砂糖の塊みたいに甘いキス。

とろとろと繋ぎ目からゆつくりと溶けてなくなりそう。

ああ、いっそ、溶けて一つになればいい。

そうすれば、気持ちも一直線に伝わるのに。

ゆつくり開けた僕を君の視線が捕らえた。

僕からも視線を絡め、ぐちゃぐちゃにした。

「君が好き。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1819o/>

君と僕

2010年10月10日21時07分発行